

図書館員のひみつの本棚 第195回

今月はパンクロックを題材にした青春小説です。

『拝啓パンクスノットデッドさま』

石川 宏千花／作 くもん出版 2020年 ¥1400(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生★★★★

高校★★★★ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

高校1年生男子の晴己は、東京の多摩地区にあるボロアパートに弟の右哉と2人暮らし。父親は知らない。母親はたまにしか帰ってこない。2人の面倒を見ているのは、若いころから晴己たちの母親に恋をしているにも関わらず、恋人候補にもなれていないしんちゃんと、しんちゃんが教えてくれたパンクロック。孤独や不安に押しつぶされそうなとき、晴己はいつもパンクロックを聴いた。友達や同世代はほとんど聞いていないパンクロック。しんちゃんは「パンクロックは死んだ」って言うけれど、晴己と右哉は自分たちのパンクロックバンドを持つことだけが希望だった。

そんな中、いろいろな偶然が重なって晴己は右哉とバンドを結成することになる。けれどその矢先、母親が突然帰宅、再婚して右哉だけを連れて行くと言い出した。

<子どもに手渡す時のポイント>

『お面屋たまよし』シリーズ(講談社)で人気の著者です。そのことを伝えてあげると読みたいと思う子もいるかもしれません。

子どもに馴染みな少ないパンクロックが題材ですが、ストーリーは希望のある青春ストーリーなのでその部分を紹介してあげると手に取りやすいと思います。具体的なパンクロックのバンド名や曲名がたくさん出てくるので、気になる子には Youtube などで検索してみるといいよと教えてあげてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。